

# 明日への扉

アスヘノトビラ

平成31年1月号

京都市立春日丘中学校

## 道徳通信

\*\*\*学校教育目標\*\*\*

『確かな自立・志ある貢献』

時折、雪が舞う冬、真っただ中です。そんな、ある日。JR京都駅まで出掛けると、週末のせいもあってか、構内は国内外の観光客であふっていました。目立ったのは、中国、台湾、韓国からの訪日客でした。道を尋ねてきたのは台湾の人でしょうか。この時とばかり、少し尋ねてみると「台湾では、雪はめったに見られない。その風景を金閣寺や清水寺で見られたら嬉しい…」。京都観光の魅力が分かったような気がしました。

冬は、受験のシーズンです。京都には大学も多いので、大学を受験する高校生の姿がこれから目立ってきます。また、京都市内の多くの私立高校の入試は、今週末です。春日丘中学校に入学してからの3年間。「学ぶ」ということは、決して楽なことではなかったと思います。苦しくて、悔しくて、涙を流した日もあったことでしょう。入試では、その涙を“うれし涙”に変えてください。努力したことは、きっと最後に報われます。最後まであきらめず、自分の力を出し切ってくれることを祈っています。今こそ！春日丘魂を！



### \*-\*-\*-\*-\* 授業の様子を紹介します \*-\*-\*-\*-

#### “違いを乗り越えて”

1年生は、『国際理解』について学びました。

Aさんは、インドネシアからホームステイで主人公の家にやってきました。ザルそばと一緒に食べに行ったときのことです。ズルズル音をたてながら食べ始めた私。Aさんは、「インドネシアでは、物を食べるときに音を立てるのは行儀の悪いことです。」「えっ？日本では当たり前のこと。」「目の前でそんなことされたら食欲がなくなる。」「あなたは今、日本にいるのだから、日本の作法に合わせたらどう？」この言い合いのあと、私はすっきりしない気持ちになります。Aさんの気持ちがわからない…でも日本のマナーを押し付けてしまったかも…と葛藤します。その後、私にはインドネシアの文化を理解しようという気持ちが芽生えます。



2人の関わりを通して、お互いの文化や伝統を尊重し合う気持ちが大切であることに、みなさんも気づけたのではないでしょうか。以下は、私たちの仲間である日本語教室の友達の作文です。『フィリピン人のいいところはおもしろいところです。日本人のいいところは、仕事をまじめに取り組んでいるところです。』『フィリピンの朝は、子ども達が遊んでいてにぎやかですが、日本は静かで落ち着いています。僕は違いがあるのは当たり前だと思うし、今後違う文化に出会ったら、どの文化に触れてみたいと思います。』

一番近くにいる仲間のことを考えようとするみなさんの感想です。

- ・日本語教室で頑張っている友達が、もし戸惑っていることがあれば、声かけをしたい、と思った。
- ・友達の国の文化をしっかり尊重する気持ちを持って、接していくたいと思う。
- ・お互いの違いをしっかり認め合うことから、新しい発見が生まれる。

【違うのが当たり前。お互いを認め合おう。】



## “生きる”

2年生は、担任・副担任の先生が全クラスをまわって授業する“ローテーション道徳”まったく中です。先日の授業は藤原先生が担当、谷川俊太郎の詩『生きる』にならって、「生きているということ　いま生きているということ」の後に続くフレーズを考えました。自分にとっての『生きる』とは？班で交流し、友達の考えにふれることで、はじめの考えがブラッシュアップされる様子が手に取るようにわかりました。そして、出来上がったみんなのフレーズを並べると…世界に一つだけの詩が出来上がりました！あなたにとっての『生きる』とは？ぜひ考えてみてください。



生きる

《ワークシートより（授業の感想）》

## 生きているということ　いま生きているということ

大切な人たちに思いを伝えられるということ  
素直な気持ちを伝えられないこと  
だれもがこの世界で輝いているということ  
やりたいことができるということ  
あの人を悲しませないために どうすれば良いか考えるとい

生きているということ  
いま生きているということ  
それはのどがかわくということ  
木もれ陽がまぶしいということ  
ふつと或るメロディを思い出すということ  
くしゃみすること  
あなたと手をつなぐこと

谷川  
俊太郎



## “介助犬アトム”

 2年生と同じく、昨年12月より3年生もローテーション道徳を行っています。担任・副担任の先生方が交代で、各クラスで授業をしています。ローテーション道徳も今回で8回目となりました。今回はその中から、西岡先生の授業の内容を紹介します。



ある日突然事故に遭い、今まで当たり前にできていたことが当たり前にできなくなってしまった  
たら…？主人公の館林さんと介助犬アトムとの生き方から、みなさんは何を感じましたか。「心を支える」とは、どのようなことなのでしょうか。「心を支える」ためにもっとも大切にしなければいけないことはどんなことなのでしょうか。心に寄り添うことについて、ぜひこの授業を通して考えてもらいたいと思います。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・映像を見て、介助犬ってあんなに賢いんだと初めて知った。はじめは死にたいと思っていた主人公も、今では楽しく生活することができて、アトムはヒーローだと思った。
  - ・アトムは自分よりも千賀子さんを想っているんだと思った。千賀子さんを救ったのはアトムだし、感動した授業だった。
  - ・私も人の心を支えられるように優しさや思いやりを持っていきたい。
  - ・人間の心を支えるのは人間だけじゃなくて、動物なども支えることができる事がわかった。思いやりの気持ちが大切だと思う。
  - ・犬が人を助けているところを見ると本当にすごいなと思うし、強い絆だなと思った。
  - ・今日の授業を通して、当たり前の事ができるということの大切さを感じた。また、介助犬はロボットではなく、生き物なので心を通わせる事が大事だということを学んだ。
  - ・介助犬は、その人の体をサポートするだけではなく、その人の未来をもサポートしてくれる、とてもすばらしい存在なのだと改めて感じた。こんなにも心を通わせて、一心同体になっている様子を見て、とても感動した。